# 令和８年度　第２回学校運営協議会議事録

さいたま市立川通中学校

１　日　時　令和８年１１月１８日（水）１３：５０～１５：２０

２　場　所　川通中学校会議室

３　出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会　長 | １ | 平田　あつし | 東岩槻連合自治会顧問 |
| 委　員 | ２ | 井原　勇司 | 川通地区自治会連合会長・長宮自治会長 |
| 委　員 | ３ | 輪島　泉 | 主任児童委員 |
| 委　員 | ４ | 木下　由美 | 川通中学校　ﾁｬﾚﾝｼﾞｽｸｰﾙ実行委員長 |
| 委　員 | ５ | 安藤　孝吏 | ふれあいプラザいわつき館長 |
| 委　員 | ６ | 田中　久美子 | バンビ保育園園長 |
| 委　員 | ７ | 牧内　香里 | 川通中学校　ＰＴＡ顧問 |
| 委　員 | ８ | 佐々木　志帆 | 川通中学校　ＰＴＡ会長 |
| 委　員 | ９ | 八坂　和典 | 川通中学校　校長 |
| 委　員 | １０ | 山口　祐貴子 | 川通中学校　教頭 |
| 委　員 | １１ | 春山　悟 | 川通中学校　学校地域連携コーディネーター |

桑原　渉　（生徒指導主任）
森田　洋子　（教育相談主任）
川越　皆輝　（研究主任）
田口　祐子　（さわやか相談員）

欠席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委　員 | １ | 渡邉　美佐子 | 民生児童委員 |
| 委　員 | ２ | 六沢　純光 | 常源寺住職 |
| 委　員 | ３ | 葉抱　敬介 | 川通小学校　校長 |
| 委　員 | ４ | 伊藤　さおり | 上里小学校　校長 |

次第

（１）教育長動画視聴
（２）校長挨拶
（３）会長挨拶
（４）学校の現況報告
①さいたま市立学校におけるｶｽﾀﾏｰﾊﾗｽﾒﾝﾄへの対応に関する指針について（校長）
②創立８０周年記念行事及び学校教育活動の様子について「川中Today」（教頭）
③いじめ対策委員会・生徒指導・教育相談について（生徒指導主任・教育相談主任・さわやか相談員）
④川通中学校ボランティア制度の現状について（学校地域連携コーディネーター）
⑤キャリア教育・各学年代表生徒発表　※発表生徒に対して、委員からの価値づけコメント記入
・２年「未来くるワーク体験」
・１年「フィールドワーク」
・３年「未来への第一歩～これまでの歩みを振り返り、目指す姿を発信しよう～」
・４組「絵本の読み聞かせ」

⑥「令和８年度埼玉県進路指導・キャリア教育研究会（委嘱）」
「２５地区進路指導・キャリア教育研究協議会」について（研究主任）
研究主題：「生徒のエージェンシーを育む教育の研究
～主体的に自らの進路を切り拓き、社会で活躍できる生徒の育成～」

4　熟議「三位一体のキャリア教育～家庭・地域・学校の協働による社会の担い手育成について」
【主な意見】
・夏休み宿題教室のボランティアに不登校生徒が参加してくれたことがあった。その後、登校できるようになった。人の役に立った経験や地域に協力することで自信がついたのかなと思う。
・小学生に中学生が教える機会があったとき、小学生は中学生の言うことをよく聞いていた。小学生に親が言っても聞く耳を持たない時もあるので、大人と子どもとの繋がりも大事だが、子ども同士、先輩と後輩、中学生と小学生の繋がりも大事だと感じた。
・もともとは関係性のない様々な子どもたちが触れ合う場があると、自然とだんだん仲良くなっていく。その関係性を大人が見守っている。そうした出会いの場を地域がつくることが大切だと感じている。
・東岩槻まつりが大盛り上がりであった。その熱気の中に子どもたちも溶け込んでいたが、地域としてこういう経験を大人と一緒に味わわせることが将来的に地域の担い手に繋がっていくと考える。
・防災について、大人の言うことを理解して動ける人材として、中学生の参加は不可欠。
・三位一体のキャリア教育について、川中は様々な取組をしているが、ねらいや目的をどう落とし込むのかの視点がすべての取組に盛り込まれていてすばらしい。生徒の発表を聞いて、成長の過程を生徒自身が自覚していて、川中の教育の高さが如実に現れていると感じた。
・防犯の旗振りをしていると、中学生が通り、挨拶や御礼を言ってくれる。その教育がすばらしいと感じる。
・ボランティアに中学生がきてくれると、地域や大人に喜ばれる。期待されているということも含めて、案内していくことがより多くの生徒の参加に繋がる。
・意欲が行動に繋がらないという課題について、親子が一緒にやる経験が大切なのだと感じる。
・川通地区は、家と家の距離が離れている。年寄りが多い地域である。地域行事についても、親の参加が希薄になりつつあるので、地域の実情も踏まえて、親も巻き込みながら地域活性化につなげていくことが大事。
・地域の方々から学校に寄せられる様々な機会でのお褒めの言葉は、教員を介して子どもたちに伝えているが、地域の方から子どもたちへ直接届く価値づけの言葉は非常に有効的であるため、ボランティアの際などにぜひお願いしたい。
・地域でできることがボランティアだけではないと感じる。防犯やまつり、地域行事など、地域で何が行われているのか子どもたちに発信していくことが大切なのだと感じる。あいさつ１つでも、地域に関わる機会であるという価値づけをしてあげることが、積極的に地域に関わろうとする行動につながるのではないか。

6　諸連絡（今後の予定）
第３回　　２月１７日（火）１３：５０～１５：２０